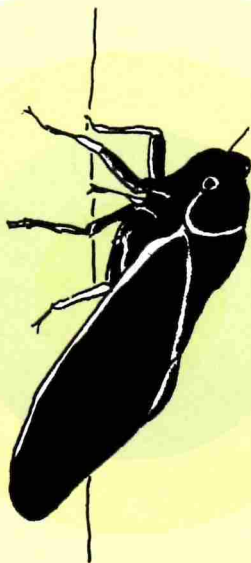


4. セミのなかま



大きさ（体長）
頭の生から翅の生までの長さ

クマゼミ (セミ科)

●よく見られる時期 7月～9月 ●大きさ 60～68mm



体は黒く、透明な翅はねに緑色の線がある大きなセミです。「シャワ、シャワ、シャワ、シャワ」と朝早くから大きな声で鳴きます。センダンやカエデ類、サクラの木に多く見かけますが、産卵はもっぱら枯れ枝にします。

最近では都心部の街路樹などに多く発生しているようです。市内でも、アブラゼミよりもクマゼミの姿をよく見かけるようになりました。

アブラゼミ (セミ科)

●よく見られる時期 7月～9月 ●大きさ 53～60mm



市内で普通に見られるセミです。翅の色が傘^{はね}などに使われていた油紙^{あぶらがみ}に似ていることから、この名前がついたようです。

雑木林^{ぞうきばやし}や人家の庭の松の木、時には電柱や家の壁にも止まっていることがあります。一日のうちで、主に午後から夕方にかけて「ジー、ジィリー、リー」と鳴きます。

セミの“おしっこ”は、おどろいた時だけにするのではなく、樹液を吸いながら消化カスと尿酸^{にようさん}などの混じったもの、つまり大小便の混合物をおしりから出しているのです。

ニイニイゼミ (セミ科)

●よく見られる時期 7月～9月 ●大きさ 25～30mm



夏休みが近づくころになると、神社の森などから「チーシー」と長くすんだ音色で、耳の奥までしみわたるような声で鳴くのが聞こえてきます。体は小さく、うす茶色の翅はねに白いまだら模様もようがあり、木に止まった姿は樹幹じゆかんと見分けにくいです。

幼虫は背中がまるく、ぬげがらには泥が全体についているので他のセミの幼虫と区別できます。ここ数年クマゼミは増えてきていますが、ニイニイゼミの姿が減ってきています。

ツクツクボウシ (セミ科)

●よく見られる時期 8月～9月 ●大きさ 40～47mm



鳴き声が「ツクツクポーシ、ツクツクポーシ」と聞こえることから、この名前がついています。8月の中ごろから数が多くなり、この声を聞くと夏休みの終わりを感じます。

透明な翅^{はね}に、緑がかった黒っぽい体の小型のセミで、1日のうちで昼ごろと夕方の2回よく鳴きます。このセミもクマゼミやアブラゼミに比べると数は少ないのですが、鳴き声に特徴^{とくちょう}があるので、だれでも聞き分けることができます。

豊中のセミ

豊中市内では、8種類のセミがいます。どういうわけか近年クマゼミがずいぶんふえてきました。

一方、ニイニイゼミやツクツクボウシの姿が減ってきたようです。住宅地でのアブラゼミはあいかわらずよく見かけますが、ハルゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシやチッチゼミなどは島熊山しまくまやまから箕面市との境さかいにつらなる緑地帯など、よく自然の林が残されている所にわずかにいるくらいです。

セミの鳴く時期と時間

セミの鳴く時期と時間は、種類によってまっています。

5～6月ごろに鳴くのはハルゼミで、他のセミはまだ鳴いていません。7月になると、どちらが先か年によって違うようですが、クマゼミとニイニイゼミが鳴き始め、7月の中ごろにはアブラゼミも加わりにぎやかになり、いよいよ夏たけなわです。

日の出とともに午前中にやかましく「シャワシャワ」と鳴くのがクマゼミです。その声も昼すぎにはぴたりとやんで、アブラゼミの声ばかりが聞こえてきます。夕方になるとニイニイゼミの声も加わり、ひとしきり鳴いて日没とともに静かになります。

ときには、夜中がいてうでも街灯の明かりのため、昼とまちがえて鳴くものもあります。

ツクツクボウシが鳴きはじめると、もう夏休みも終わりに近づきます。セミたちの声も9月の末にはほとんど聞こえなくなり、秋の虫たちの出番でばんになります。

セミの生活史



(クマゼミの羽化)

メスは、しりの先の
とがったところ^かで枯れ
枝にきずをつけなが
ら、卵を産みつけてい
きます。翌年の夏、卵
からかえった幼虫は土
の中にもぐり、木の根
の養分を吸い、秋にな
ると毎年^{だっぴ}脱皮をくりか
えして大きくなってい
きます。

6～7年目の夏の夕
方から朝にかけて、地
面からはい出し、木の

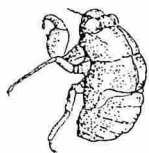
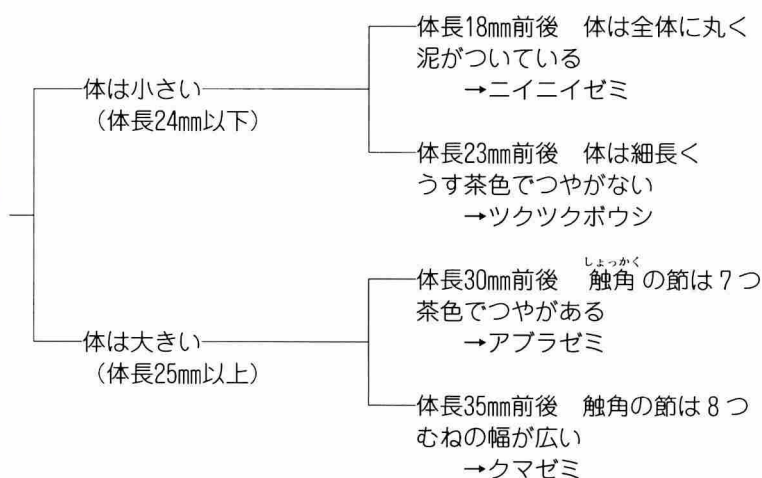
幹、枝や葉などによじ登り、脱皮をはじめます。まず、背中がたてにさけて、
中から青みをおびた白っぽい成虫の背中^の部分が出てきます。つづいて、頭、
脚^{あし}の順に出ると、ぐっとそりかえたままで、しばらく動きを止めます。次
に、起き上がってぬけがらにつかまり、おしりの先^のまでぬけ出ると、見る見
るうちに^{はね}翅がぴんとはってきます。

長い幼虫時代に比べると、成虫でいられる時間は短く、約2週間しか生き
られません。その間にオスは、さかんに鳴いてメスをさそいます。交尾をす
ませたメスは卵を産みつけます。

セミのぬけがら調べ

セミの幼虫は飛べないので、ぬけがらを調べることは、そのセミが確かにその場所で育ったという証拠しょうことなります。

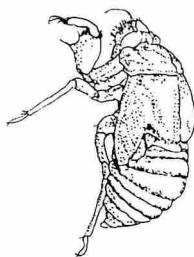
下の表は、町の中でよく見かける4種類のセミのぬけがらの見分けかたです。



ニイニイゼミ



ツクツクボウシ



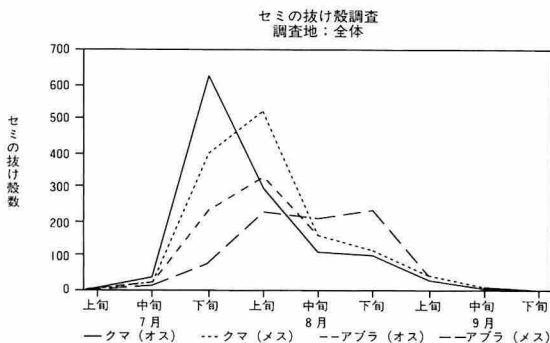
アブラゼミ



クマゼミ

セミのぬけがら調査

1993年夏、豊中市内11の小・中学校の校庭でセミのぬけがら調査が行なわれました。雨続きで日照時間が短い、異常気象の夏でしたが、採集された総数は4,232頭にのぼりました。



個体数の変動

セミの種類	雌雄の別	7月			8月			9月			合計
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
クマゼミ	雌の数	3	35	631	308	109	98	35	6	0	1225
	雄の数	1	18	398	523	159	116	46	4	0	1265
	合計数	4	53	1029	831	268	214	81	10	0	2490
アブラゼミ	雌の数	0	17	231	328	158	119	25	7	1	886
	雄の数	0	5	75	224	205	229	26	11	1	776
	合計数	0	22	306	552	363	348	51	18	2	1662
ニイニイゼミ	雌の数	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	雄の数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	合計数	0	1	2	1	0	0	0	0	0	4
その他のセミ	雌の数	0	0	10	25	0	5	1	0	0	41
	雄の数	0	0	3	25	2	4	1	0	0	35
	合計数	0	0	13	50	2	9	2	0	0	76
総 合 計		4	76	1350	1434	633	571	134	28	2	4232

アワフキムシ (アワフキムシ科)

●よく見られる時期 7月～9月 ●大きさ 11～12mm



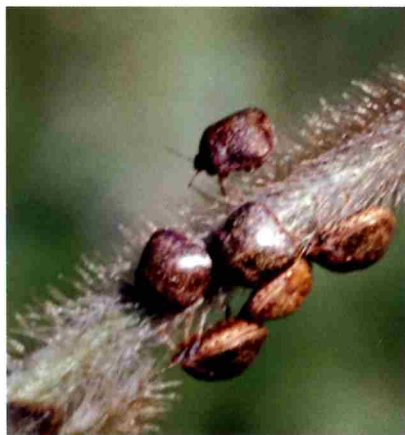
ハセ

雑木林^{ぞうきばやし}の周辺や堤防の草地などで、草の茎に白い泡^{あわ}のかたまりがついていることがあります。これは、アワフキムシの幼虫のすみかです。セミのようなストローに似た口で樹液を吸いながら、おしりから出した排泄物^{はいせつぶつ}を後ろ^{うしろ}あし^{あし}でかきまぜて泡をつくり、その中にかくれているのです。

成虫はセミのような形をした小型の昆虫で、日本には約40種います。

マルカメムシ (マルカメムシ科)

●よく見られる時期 7月～11月 ●大きさ 5mm前後



1971年10月、千里ニュータウンで、
 人家の柱や外壁などに大発生しました。
 とても臭くて、住民が悲鳴をあげたという記録があります。

テントウムシに似た丸い形の小型の虫で、特にまめ科のクズに多く発生します。

セミ

ウシカメムシ (カメムシ科)

●よく見られる時期 3月～10月 ●大きさ 8～9mm

比較的珍しい種類と言われていましたが、最近、都市の公園や住宅地などでも、しばしば採集されるようになりました。

牛の角のような^{つの}とげを両肩に突き出し、こげ茶色の背中に白い^{はんでん}斑点が2つあるのが特徴です。



クヌギカメムシの一種 (クヌギカメムシ科)

●よく見られる時期 6月～9月 ●大きさ 11～13mm



クヌギ、カシワ、コナラなどにすんでいます。体は細長く平たい形をしています。うす緑色で、^{しよっかく}触角が長く先の方に白い部分が2か所あります。

カメムシはたくさんの種類があります。どれも手でさわると、青くさい強烈なおいがつき、石けんで洗ってもなかなかとれません。このにおいは、敵から身を守るためと考えられています。カメムシは集団で生活する場合も多く、^{こうげき}攻撃を受けた1匹の虫の出すにおいが^{しげき}刺激となって、他の虫が^{いっせい}一齐に逃げ出すといった行動も見られます。

オオキンカメムシ (カメムシ科)

●よく見られる時期 4月～10月 ●大きさ 20～25mm

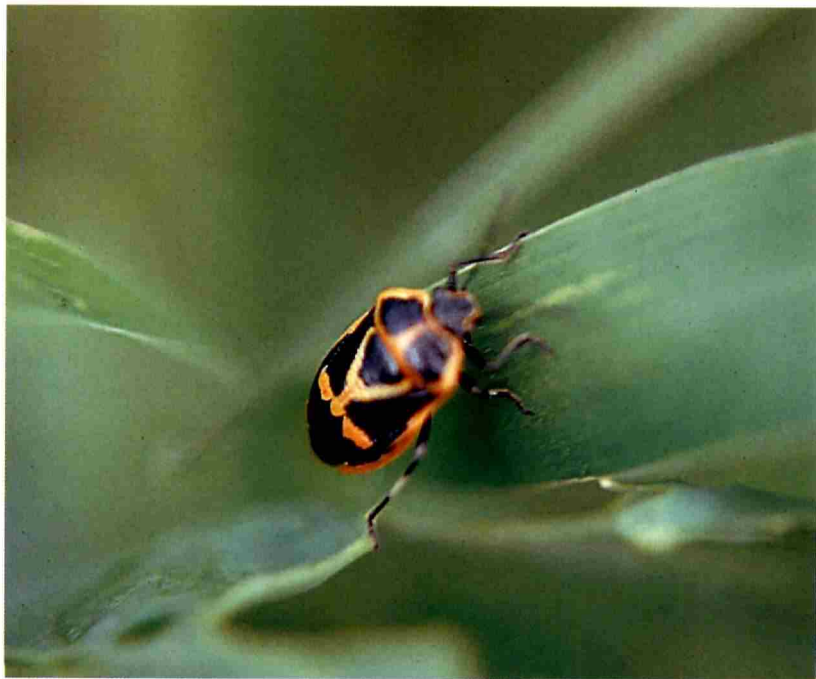


黒地に赤い模様もようが美しいカメムシです。秋から冬にかけて暖かい地方へ移動して、ツバキなどの葉の裏や幹に集合して越冬えっとうします。幼虫は、大阪府下にはあまり見かけないアブラギリの果実の汁を吸って成長します。

成虫は本州中部以南から東南アジアまで広く分布し、春から秋にかけて豊中市内で見られるのは移動途中のもののようにです。ツバキ、クチナシ、センダンなどの果実の液も吸います。

ナガメ (カメムシ科)

●よく見られる時期 4月～11月 ●大きさ 7～9mm



アブラナにつくカメムシという意味で「^な菜ガメ」と呼ばれています。ダイコンやキャベツなどにたかって、針のような口をさし込んで樹液を吸います。12個の卵を2列にきちんと生みつけるのが^{とくちょう}特徴です。

エサキモンキツノカメムシ (カメムシ科)

●よく見られる時期 3月～11月 ●大きさ 11～14mm



背中の白黄色の模様はくおうしょくもようがハート型をしているのが特徴とくちょうです。これとよく似ていて、模様がまるいのを「マルモンツノカメムシ」といいます。ミズキ、ハゼノキ、サンショウなどの木にすみ、70～80個の卵を産みます。成虫で冬を越します。

ヨコヅナサシガメ (サシガメ科)

●よく見られる時期 6月～9月 ●大きさ 16～24mm



チヨウヤガ、ハチなどの幼虫の体液を長くちばしをさし込んで吸います。このなかまは、うっかり手でつかんだりすると指先をさされることがあるので、気をつける必要があります。

終令^{しゅうれい}幼虫は、黒地に赤いまだら模様^{もよう}が美しく、エノキ、サクラ、カキなどの大木の地上1 mくらいのくぼみで集団^{みっとう}で越冬します。戦後、九州から京阪神へ、さらに現在は滋賀県の彦根市まで分布を広げています。